



幸せな贈り物

# 教権なのか？人権なのか？

今、学校現場では…

**事例 1** キョンギ、ウイジョンブ市のある小学校の A 校長 (58 歳) が、教師にいつも卑劣な言葉と人格を冒とくする発言を日常的に行ってきたことが明らかになった。特に女性教師に

「バージンなのか？」と言うなど、今年 3 月に赴任した後、会食などの席ではもちろん、校内でも教師たちを相手に 100 件を超える激しい悪口とセクハラ発言を日常的に行った。**事例 2** ソウル、カンソ警察署は、ホアゴクトン所在のある中学校の女性教師である A (35) さんが、自分が担任をしているクラスの学生である B (15) 君と数回、性関係をした事実が B 君の両親に発覚して、警察の調査を受けたと明らかにしたが「たがいに好きでしたことだけで、代価はなかった」と述べた。A さんは、小学生の子どもを持った保護者であると伝えられて衝撃を与えている。

**事例 3** 11 月 21 日インチョンの A 中学校によれば、その学校の時間制契約職の女性教師が、放課後の授業で数学科目を教えていたとき、廊下で授業を邪魔する中学校 1 年のキム君 (13) に「授業に邪魔になるので他にいきなさい」と 2 度話した。それでも、キム君が話を聞かないのでこの教師は廊下に出て行って、彼の頭を 2~3 回殴り、キム君はこれに対抗してこの教師の顔をげんこつで 3、4 回殴った。**事例 4** 先月 15 日、チョンナム、スンチョン市の A 中学校 1 年 12 クラスの教室で B 教師 (55・女性) が、授業中に

他のことをしていた学生 C さん (12) に「他のことをしているのか」と言ってノートを奪おうとしたので、C さんが制止した。これに B 教師が C さんの後頭部を手の平で殴ったら、C さんは「教師が学生を殴ってもよいのか。授業をしなさい」と言って、机を蹴飛ばして出て行った。B 教師は C さんの首をつかんで座らせ、お下げをつかんで、C さんも B 教師のお下げをつかんで放さなかった。**事例 5** 26 日キョンギ、ソンナム市の G 中学校に警察官が出動した。3 年の男子学生が「暴れている」という通報を受けたためだ。この学生が廊下の大型額縁を壊すなど、乱暴な行動と悪口を継続して止められず、教師たちが警察に助けを要請したのだ。学校関係者は「教師たちが警察に通報したのは正しいことではないが、体罰もできない状況で、よほどでなければそうしなかった」と言ってため息をついた。**事例 6** 11 月 23 日チュンチョンのある小学校では、6 年の担任教師である A さん (29、女性) が午前の休息時間に友だちを困らせた学生 B 君 (13) を呼んで注意を与えている間、この学生から、お腹や頭などを数回暴行受けた。

「いまを生きる」が懐かしくなる時代 『今 6 年の教室では』の著者、キム・ヨンファ (57) 教師は「以前にも悪口や暴行など小学校 6 年の逸脱行為があったが、訓戒や体罰を通して、ある程度、統制できたが、現在 6 年の教室は統制不能といっても言い過ぎではない」と指摘しました。学生をこらしめることでもすれば、保護者が電話をしてきて、教育庁に人

格冒とくで申告するとおびやかすせいで、教師たちは学生指導に意欲を出せません。ある小学校教師は「よほどでなければ、毎年6年の担任を配分するのにみんなが拒否して、校長が困りきるのです」と現場の雰囲気を与えました。以前の学校現場で問題の主人公(?)は、大部分が高校生でしたが、最近では問題の中心に小学校6年から中学校2年に該当する「1315世代」があります。体罰禁止で学生たちは解放感を感じる反面、教師たちは権威と統制力を失って、教室崩壊現象が大きくなっていきつつあると現職教師たちは訴えています。

いまを生きる(Dead Poets Society)は、ピーター・ウィアー(Peter Weir)監督、ロビン・ウィリアムス(Robin Williams)主演の1989年の映画です。伝統、名誉、訓育、そして卓越を4大原則にしている伝統ある保守的な男子校であるウェルトン校にちょっと型破りの英語先生であるジョン・キーティングが赴任してきました。くるやいなや、彼は子どもたちに今は消えた先輩の写真を見せながら、carpe diem(ラテン語:Carpe, carpe diem、いまをつかめ。君の人生を特別にさせろ)という精神を吹き込みます。学生たちが先生の教育方式に引かれるようになり、ある学生が遠い以前にキーティング先生が学生時代活動した「死せる詩人の会」(Dead Poets Society)という古典文学クラブについて偶然に知るようになって、自分たちも学校の近くの洞窟で先生のようにクラブ活動をするようになります。それとともに、すべてが自分たちの真の人生に目を開くようになります。ある日、学校のなかで発生した学生の自殺事件で、自分の子どもの利益だけ考える親たちと、責任回避に血眼になった学校側の合意で、キーティング先生は学校を離れるようになります。離れるキーティング先生に学生たちは机の上に立ち、真実の尊敬を表わしたという内容です。はたして、真の師匠と真の弟子、真の教育は不可能なのでしょうか。

**根本を変えるのが真の教育の開始です** 魚は水の中に生きてこそいのちがあって、鳥は空を飛んでこそ自由になり、木は地に根をおろしてこそ実を

結ぶように、私たちの人生もまた神様とともにいる創造原理によって生きていく時だけ幸せなのが、本来の姿です。ところで、霊的存在である人間が神様を離れた瞬間、水を離れた魚のように喉が渇いてもがいて、鳥籠に閉じ込められた鳥のように人生が苦しくて、根が抜かれた木が実もなく枯れて行かなければならないように、人間に差しせまってくる理解できない霊的な葛藤と苦しみ、運命の災い、サタンの呪いは避けられないのです。いくらもがいても人間が解決できないので、神様は人間の問題を解決して下さるために「キリスト」を送ると約束してくださいました。

イエス・キリストは、神様を離れたすべての人間が神様に会うことができる唯一の道である真の預言者です。イエス・キリストは、十字架で私たちの罪を身代わりに受け、十字架で死んで復活されることによって私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放させられた真の祭司です。イエス・キリストは、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼされた真の王です。このイエス・キリストを信じて私の心に受け入れれば良いのです。この時、神様が永遠にともにおられるようになる神様の子どものお身分を受けようになり、本来の人間が味わった祝福と権威を回復するようになるのです。イエス・キリストは、すべての運命と災い、生年月日による運命、地獄の権威とサタンの呪いから永遠に解放して下さり、真の人間関係の祝福を味わうようにさせて下さる人生の解答です。そして、あなたは幸せでなければならない大切な人です。

「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない」

(箴言 22:6)



それでも

# 先生が希望です！

ボストンのある保護所にアン(Ann)という少女がいました。アンの母親は亡くなっていて、父親はアルコール中毒者でした。父親による心の傷で保護所にいっしょに来た弟まで死んで、アンは衝撃で狂うようになり、失明までしました。アンは、いつも自殺を試みて、奇声をあげていました。結局、回復不能だという判定を受けて、精神病棟の地下の独房に入れられました。みんなが治療をあきらめたとき、老看護士であるローラ(Laura)がアンを世話すると自ら申し出ました。ローラは友だちになって、毎日、お菓子を持って行って、本を読んであげて祈りました。そのように、ひたすら愛を注いだのですが、アンは壁のように何の話もせず、アンのために持ってきた特別な食べ物も食べなかったのです。

そのようなある日、ローラはアンの前に置いてあったチョコレート皿からチョコレートが一つなくなったのを発見しました。勇気を得てローラはずっと本を読んであげて、祈りました。

ついに2年後にアンは正常な人という判定を受けて、パキンス視覚障害学校に入学して、教会に通いながら信仰心で明るい笑いを見出しました。その後、ローラが死ぬ試練も体験したのですが、アンはローラが残した希望を見る心で試練に勝ち、学校を最優等生で卒業して、ある新聞社の助けで目が見えるようになる手術にも成功しました。手術後のある日、アンは新聞記事を見つけました。

「見ることができず、聞くことができず、話すことができない子どもの世話する人を求む！」アンは、その子に自分が受けた愛を与えてあげることに決心しました。人々は教えられないと言ったのですが、アンは話しました。「私は神様の愛を確信します」結局、愛でその子どもを20世紀最大の奇跡の主人公に育てました。その子が「ヘレン・ケラー」であり、その先生がアン・サリバン(Ann Sullivan)です。アンは、ヘレンと48年間、一緒にいてあげました。ヘレンがハーバード大学に通う時は、ヘレンとすべての授業を一緒にしながら、彼女の手で講義内容を書きました。ヘレンは「私が三日間、目が見えるようになるならば」(Three days to see)という文章で、このように告白しました。「最初の日、私は親切と謙遜と友情で私の人生を価値あるようにしてくれたサリバン先生を訪ねて行って、今まで指先で触るだけで知っていた彼女の顔を何時間でもぼんやりながめながら、その姿を私の心に深く確実に大事に保管しておきます。家に戻って、私をその三日間だけでも見えるようにして下さった神様に感謝の祈りをささげます」

ヘレン・ケラーが告白したのは、「視力がない人よりさらにかわいそうな人はビジョンがない人だ」ということでした。

「教育とは、人間が人間を相手にして人間を作ることだ。神様を知っている人が神様を知らない人に行き、神様を知っている人にするのが教育学で、キリスト教教育学だ」(パク・キスン教授)

## 神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。  
私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放して下さったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。  
イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

## 神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。  
今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。  
どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。  
そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。  
今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト\_シン・チョンウン

## わたしに 送られてきた手紙

アメリカのニューヨークで実際あったことだが、韓国のおじいさんが郵便局にきて文句を言ったという。理由は、なぜ正確な住所を書いて送った自分の手紙が、どうしてまた私に戻ってきたのかと、このように老人を無視してもかまわないのか、外国人だとこのようにいいかげんに扱ってもかまわないのかと、韓国人特有のむかつとした気持ちで顔を赤くしたり青くしたりしてしたということだ。

突然に、びっくりするように叱られた窓口の職員が、アメリカ人特有の微笑を浮かべておじいさんに近づいて静かに彼が送ったという手紙、すなわち彼が自分に戻ってきたという封筒をもって説明を簡単にしてあげた。わかってみたら、おじいさんは封筒の表にきちんと心をこめて住所を書いたのは間違いなかった。しかし、受信と発信の位置を正確なところに書かずに送ったので、結局、自分の手紙を自分が受け取ることしかできなかったのだ。

おじいさんは、自分が間違っただけではなく、よく書いて送ったので、ちゃんと届くと思っていたのに、その手紙がまた自分に戻ってきたのから、自分が無視されたという誤解をしたのだ。

手紙は、郵便配達人が思いのままに配達するのではなく、受けなければならぬ受取人の住所を正確に見て配達するのだ。確かに郵便局の消印が押されたのに、手紙が戻ってきたのは、配達人がおじいさんをからかおうとする行動ではなかった。かえっておじいさんの正確な失敗が、忙しい配達人に手間をかけさせる事になったのだ。おじいさんは、苦労して仕事をしたが、事実は無駄なことをしたので、た

くさんの時間を浪費してしまったのだ。単に重要なのは差出人と受取人を混同したためだ。

人生を生きると、人々はこういう無駄なことをあまりにもよくする。家庭に病気や苦しみがやってきて、問題がたくさん起きるので、山に行って祈って、海に祈って、石を見て祈り、木を見て祈る。結局、このように人格がない存在に向かって祈ることを偶像崇拜と言うのだが、こういう偶像のうしろには、必ず目に見えない汚れた悪霊が存在するので、祈っているその人と家庭に、精神的な病気と肉体的な苦しみで、いろいろな病気と不治の病が現れるようになる。それで考えるのが、自分が誠意が足りないのだ感じて、より一層、人格がないものに向かって、また正確に祈って祈り続けるので、より大きい問題と苦痛が訪れるようになる。こういう苦労はいくらがんばってしても、そういう努力を無駄骨と言うのだ。正確な住所を書くことができなかつた手紙と同じだ。

聖書は人生の道をよく見つけて行けるように正確な案内板を与えている。神様に会う道が必要なので道を作るのは宗教だが、神様は道をくださって、ただ行くだけで良いと言われる。すべての宗教は人間に正しい道を作れと言うので良いことだ。しかし、私たちに与えられた福音は、そのように無駄なことをしながら道を作る苦労をせずに、道であるキリストを受け入れなさいと言う。なぜこのように苦痛がブーメランのようにはっきりと私に再び戻ってきてばかりいるのかと思う方がおられるならば、道を作る無駄骨をしているためだと思えば良い。自分の問題に公然と怒りを覚え、他の人を苦しめることなく、私を完全にいやすキリストの道に立って、正確な解答を味わうことをおすすめする。どうせ苦労しておられるのだから。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

\* 相談したい方はこちらまでどうぞ